

野生イノシシ捕獲に係る取組状況について

1 豊橋市及び田原市における野生イノシシの捕獲頭数について（表 1、図 1）

2024年度 7 月末時点の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市26頭（前年度同時期：54頭）、田原市54頭（同：138頭）となっている。

豊橋市、田原市ともに前年度と比べ減少しており、7 月末時点では2020～2022年度と同程度の頭数で推移している。

また、県が田原市内で実施している指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数は、7 月末時点で6 頭（同：8 頭）となっている。

表 1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（頭）

市／年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024*	
豊橋市	268	165	121	210	316	26	
内訳	有害	220	160	111	198	303	26
	狩猟	48	5	10	12	13	0
田原市	497	270	125	212	393	54	
内訳	有害	492	204	87	160	370	48
	指定管理	未実施	66	35	47	15	6
	狩猟	5	0	3	5	8	0
計	765	435	246	422	709	80	

※2024年度は 7 月末時点の速報値

捕獲頭数

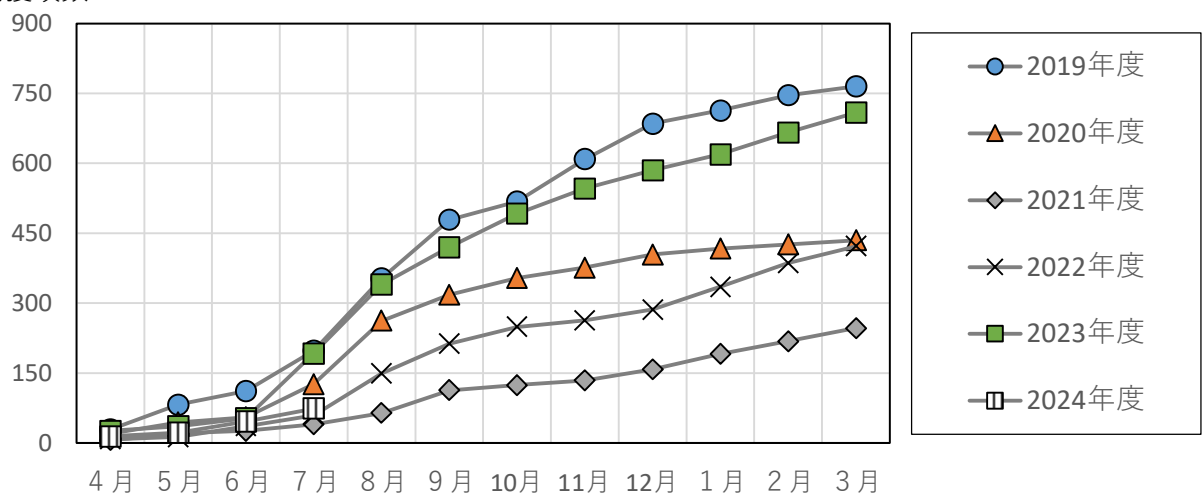


図 1 豊橋市及び田原市における野生イノシシ捕獲頭数の経年推移
（捕獲数の月別積上推移）

2 移動防止柵及び山塊分断柵の維持管理状況について（表2、3、図2、3）

愛知県では、渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会における議論・要望を基に、豊橋市及び田原市における野生イノシシの侵入経路の遮断と効率的な捕獲を目的として、国の消費・安全対策交付金を活用し、移動防止柵及び山塊分断柵を2019～2020年度に設置している。

表2 移動防止柵及び山塊分断柵の設置箇所及び設置延長

柵種類	No.	設置箇所	設置延長 (km)
移動防止柵 (2019年設置)	①	渥美半島南西部（田原市大山周辺）	9.39
	②	渥美半島南西部（田原市赤羽根漁港周辺）	0.35
	③	表浜海岸沿い緑地（田原市大草海岸）	0.87
	④	表浜海岸沿い緑地（田原市久美原海岸）	0.75
	⑤	表浜海岸沿い緑地（豊橋市東細谷町）	0.76
		小計	12.1
山塊分断柵 (2020年設置)	⑥	大山山塊東西分断柵	2.45
	⑦	大山山塊南北分断柵	1.45
		小計	3.90
		合計	16.0



図2 移動防止柵及び山塊分断柵の設置箇所

移動防止柵及び山塊分断柵の維持管理にあたっては、愛知県及び豊橋市、田原市間でそれぞれ管理協定書を締結し、市、県で協力して維持管理を行っている。

資材の交換を伴う補修については、柵の設置以降、年々補修を要する個所が増加傾向にある。特に、山奥部の山塊分断柵については点検及び補修に伴う資機材運搬に多大な労力を要することから、今後、柵の償却年数も踏まえつつ、維持管理の在り方について検討を進める。

また、2023年6月豪雨の影響により、表浜海岸沿い緑地に位置する移動防止柵の一部が破損した状態にある。今後、破損の原因となっている土砂崩れ、治山工事の進捗を踏まえつつ、移動防止柵の修繕について検討する。

表3 移動防止柵及び山塊分断柵の修繕状況

年度	修繕距離 (m)	主な修繕内容
2019	0	なし
2020	12	倒木除去、動物による掘削対応
2021	18	堆積土砂除去、倒木除去
2022	40	堆積土砂除去、倒木除去
2023	96	土砂崩れ対応、堆積土砂除去、倒木除去、動物による掘削対応



堆積土砂による破損個所(大山周辺柵 若見地区)

倒木による破損個所(大山周辺柵 和地地区)

土砂崩れによる破損個所(大草海岸柵)

2023年6月豪雨 被害個所(久美原海岸柵)

図3 主な破損状況 (写真)

3 野生イノシシによる農作物被害額について（図4）

野生イノシシによる農業被害額（速報値）について、豊橋市については2021年度以降増加傾向にある。田原市については2021年度以降、被害額は低額で推移している。

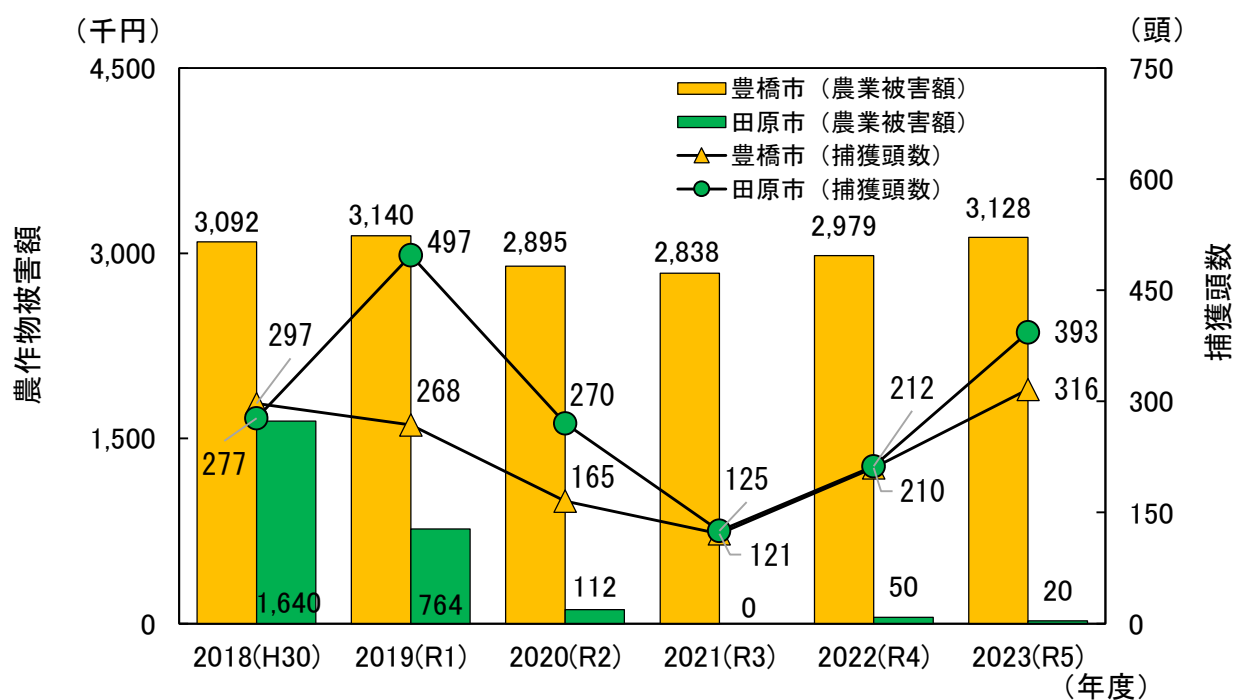
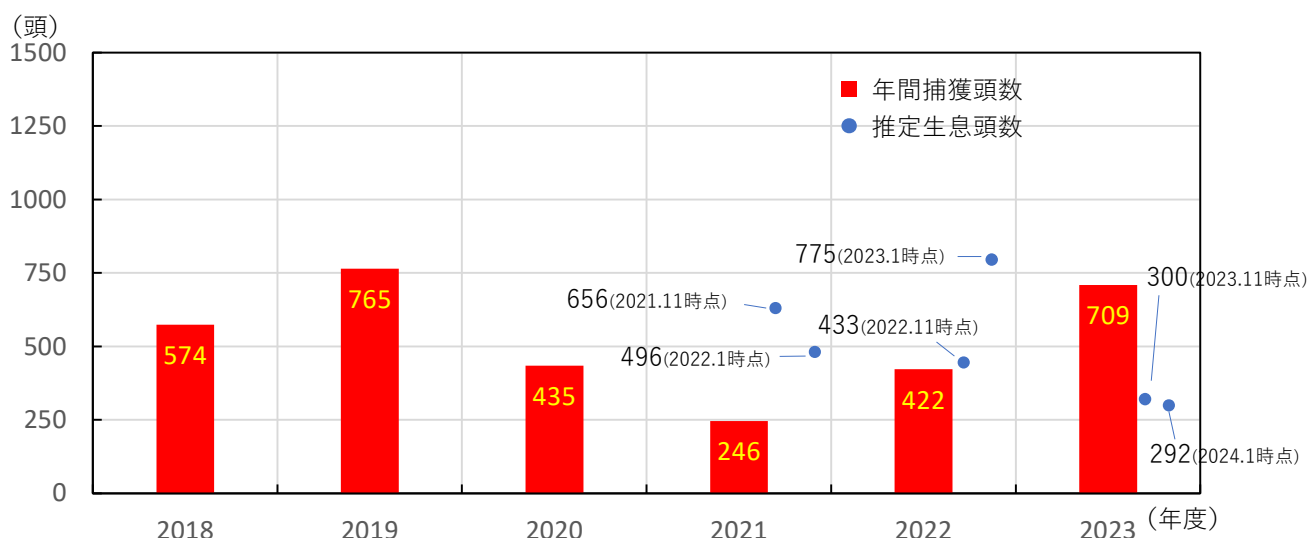


図4 野生イノシシによる農業被害額及び捕獲頭数の推移

4 野生イノシシ生息状況調査について（図5、6）

愛知県では、田原市及び豊橋市南部において、2020年度から野生イノシシの生息状況調査（自動撮影カメラ調査、フィールドサイン調査）を実施している。田原市西部の大山山塊ではRESTモデルを取り入れ、これにより得られた平均生息密度を用いて、生息頭数の推定を実施している。



※最新のデータを追加して推定をすると、過去に遡って推定値が見直されるため、推定する度に過去の推定生息頭数も変動する点に注意が必要。

図5 豊橋市及び田原市における年間捕獲頭数と生息状況調査による推定生息頭数



図6 自動撮影カメラによる野生イノシシの撮影頻度分布（2023年度全期間）

2023年度までに実施した生息状況調査の結果から、野生イノシシの生息頭数が順調に減少していることが確認出来るものの、大山山塊においては、山中の自動撮影カメラによる撮影頻度が依然として高いことから、山中にわなによる捕獲圧を避けて生息している個体群が一定数いるものと思われる。

5 その他（資料1-2）

県内の野生イノシシの豚熱陽性個体確認状況について、2024年度は7月末時点で3件と、2023年度の4件（前年度同時期、通年では19件）と比べ、ほぼ同等で推移している。

県内の地域ごとの捕獲頭数（第1四半期、4～6月）について、県全体としては2023年度と比べ増加しており、尾張、東三河、新城設楽の各地域では、2020年度以降で最も多い水準となっている。東三河地域については、豊川市、蒲郡市の捕獲頭数増加が顕著であり、豊橋市及び田原市が減少傾向にある事と相対的な状況にある。